

HOME > 生活・療養 > 家族のケア > 子どもががんと言われた親の心に起こること

✿ 子どもががんと言われた親の心に起こること

更新・確認日：2014年04月22日 [[履歴](#)]

履歴

2014年04月22日 2013年7月発行の冊子とがん情報サービスの情報を再編集し、掲載しました。

[閉じる](#)

がんという診断を受けることで、わが子を失うかもしれないという恐怖で心がいっぱいになる方が多いでしょう。何がいけなかったのだろうかと思ひ悩んだり、早く気付けなかったという罪悪感にさいなまれたり、見守ることにつらさを感じたりすることもあるかもしれません。ご家族も気分が悪くなったり、体調を崩したりすることがあります。

子どもががんにになると、家族の生活は大きく変わります。精神的な衝撃を受ける中で、担当医から説明される治療について理解し、子どもに伝え、判断していかなければなりません。

検査や治療の際には、両親のどちらかが付き添って病院に泊まりこむ場面もあるでしょう。面会時間のみで帰宅できる場合でも、体と心には負担がかかります。無理をせず休めるときに休むことも大切です。

不安を抱えながら仕事も続け、さらにきょうだいの世話しなくてはなりません。

つらいときは、周囲に助けを求めましょう。医療者やがん相談支援センターはもちろん、支援団体など、小児がんの患者さんと家族を支えようという人や機関があります。抱え込まずに、これらを利用しましょう。

つらい感情が持続し、生活に支障が生じる場合は専門家による心のケアを受けることをお勧めします。「療養中の子どもに申し訳ない」などと考えずに、ぜひ相談してください。ご家族の受診の費用に関しても健康保険が適用されます。

[◀ 家族のケア へ戻る](#)

関連情報

[がん情報サービス](#) [生活・療養](#) [ganjoho.jp](#)

よりよい情報提供を行うために、アンケートへの協力をお願いいたします。

[📄 アンケートページへ](#)